

さまざまな測地技術で高さをはかる（定員4名）

担当教員：福田洋一・西村卓也（防災研）・橋本学（防災研）・宮崎真一・風間卓仁

和歌山県白浜市は南海トラフの沈み込みに伴う地殻変動をしています。特に上下変動はプレート境界の状態を知る上で非常に重要な観測量です。この演習では、和歌山県白浜市にある防災研究所白浜海象観測所の新旧観測棟の基準点間の高さの差（比高）を、水準測量・GNSS測量・重力測定 of 3つの観測手法で測定します。また、取得したデータを解析し、異なる観測手法で得た比高を比較したり、昨年度以前と今年度のGNSS観測結果の差から地殻変動を求めたりする予定です。各手法で得られる比高は一致するのか、一致しない場合は何が原因なのか、受講者自らで考察を深めることを期待しています。

- 8月～9月中（1回、日程は相談）：実習ガイダンス、測地観測の練習
 - 9月26～28日（予定）：南紀白浜における測地観測（水準、重力、GNSS測量）、巡検など
 - 10月～11月の計3～4回：水準・重力データ解析（一部「測地（桜島）」と共同で実施）
 - 12月～1月の計3～4回：GNSSデータ解析とその応用
 - 最終回：解析結果のまとめ・関連分野の最近の話題等に関する講義
 - その他：京都市市民防災センターの見学（他のDCの課題と合同）
- ※ 本演習は学生の理解度を考慮しながら進めます。上記にない講義や参考資料の輪読、Unixの基本操作に関する実習などを行うことがあります。

